

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町海士町
電話 2-9772

海士町の教育活動

海士町教育委員会が取り組んでいる教育活動の様子を紹介しします。

【GIGAスクール 実現に向けて】

昨年度、海士町ではICT活用推進チームを立ち上げ、ICTに関わる環境整備を行ってきました。今年度は町内の小中学校代表一名もメンバーに加わり、整備された環境を学校現場でどのように有効活用していくかを検討しています。

GIGAスクール構想により、一人一台端末の環境が整備されましたが、端末配布にあたっての使用の約束や保管の仕方、休み時間の活用などにつ

いて、推進チームで話し合いや情報共有を行いました。

端末で使用するソフトについては昨年度中に各学校での試行を行いました。

その結果、今年度は教科学習における個別最適な学びのためのソフトとして「Qubena（キューベナ）」、双方向の情報発信や共同作業による思考力、表現力の向上をめざして「ロイロノート」と

「Metamoji（メタモジ）」を導入しました。一学期はそれぞれの学校で、これらのソフトの効果的な活用について模索してきました。

「Qubena」は今年度から五教科で使えるようになりました。また、「ロ

イロノート」は国語、算数・数学、音楽や道徳、総合的な学習の時間などの授業のほか、朝の健康観察でも活用されています。「Metamoji」は小学校のみの導入ですが、個別の学習過程の確認ができるよさがあり、その効果的な活用を探っていく予定です。

また、七月九日には、福井小学校においてICTを活用した授業が公開されました。隠岐郡小中学校教育研究会のメディア教育部会も兼ねていたため、当日は四十人近くの参加があり、熱心な授業研究や情報交換が行われました。

さらに家庭学習でも活用することを目指し、夏休み中に試行をしました。二学期はその反省をもとに、各校でのさらなる活用を進めていきます。
(文責 派遣指導主事 永原)

【海の楽しみ方を広げられる海士っ子の育成を目指して「アドベンチャースイム」】

コロナ禍のため今年も海士町恒例の四泊五日のアドベンチャーキャンプは実施できませんでしたが、ふるさとと海で「泳ぐ」「潜る」「飛び込む」楽しみ方を広げていく子供たちに育ってほしいという願いから、「アドベンチャースイム」を開催しました。

町内の小学五・六年生二十四名が四日間、高石（たけし）海岸に通い、海の活動に挑戦しました。



海で泳ぐことに自信のなかった初級グループの子供たちもスタッフの丁寧なかかわりによって格段に上達する姿が見られました。また、中級・上級グループの子供たちからは「これまでより深い所にいるサザエがとれた」

「いつもよりたくさんサザエを見つけた」などの声が聞かれました。

三日目は丸一日、自由活動。町内東区の方を講師としてお招きし、竹を使って遊びを生み出す体験を企画しました。子供たちは、講師のアドバイスを受けながら、水鉄砲や釣り竿作り、いかだ作りなどに挑戦しました。

失敗や修正を繰り返しながら遊びを探究していく経験が子供たちにとってかけがえのないものになりました。



最終日は防波堤から飛び込みました。何度も何度も勢いよく海に飛び込む子供、勇気を振り絞って頭から飛び込むとする子供、子供たちの元気の良い声と入水の大きな音が高石漁港に響いていました。

事業後、数名の保護者から「海に行きたい」と子供が言ってきた。「頭から飛び込む練習していただきます」などの声が聞かれました。それが何よりも大きな成果でした。

(文責 派遣社会教育主事 山下)